リーダーになる！

実践する上司学。
嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。

第45回 小さい事を大事にする

大事は小事から。会社でも同じです。あいさつ・掃除・元気ある朝礼。この三つは小さい事かもしれませんが、おろそかにせず、繰り返すことが大切です。

「嶋津さんは、小さい事にはうるさいのに、大きな事には寛大ですよね」とよく部下に言われていました。実際、あいさつや掃除、机の上の整理整頓や遅刻をしないことなどは、かなり厳しく言い続けましたが、仕事上の大きな失敗などについては寛大な部分が多かったのかもしれません。

そもそも、わたしは部下に「小事こそ大切に大切にしなければならない」と言い続けています。

ハインリッヒの法則 大事は小事から

有名なハインリッヒの法則でも、1対29対300という数値を用いて、小事の大切さを解いています。一つの重大事故というのは、29の小さな事故、そして300のちょっとした出来事（違和感やヒヤリとした瞬間）などによって引き起こされるというものです。

そのほかにも、「割れ窓理論」というものもあります。割れた窓を放置していると、そこではもっと重大な犯罪が犯されることになるという理論で、軽微な犯罪を見逃してはならないという教えです。実際にニューヨークでは、落書きを消したり、未成年者の喫煙、違法駐車などの軽微な犯罪の取り締まりを強化することによって、殺人、強盗、婦女暴行などの凶悪犯罪が減少し、治安が回復したという事例もありました。殺人にいたっては、5年間で7割近く減少したというから驚きです。

あいさつ・掃除・朝礼 小事の積み重ね大切に

わたしも仕事柄いろいろな社長から「会社を変革したいんだけど」といった類の質問をよく受けます。その時わたしは「ではまず、あいさつと掃除と元気ある朝礼を徹底してください。それができたら次の段階ですね」とアドバイスします。これは、そんなことすら徹底できない会社が、新しい戦略や方針を徹底できるとは思えないからです。

実際、この三つを徹底しただけで業績が向上したという例はたくさんあります。だからこそわたしも「机の上はきれいにしろ！」とか「あいさつは、どうしたら相手が気持ちいいかを考えてしろ！」など、仕事とは無関係ではないかと思われるほどの小事について、うるさく言い続けたのです。

仕事というのは、そんな大層なことばかりではなく、もともとは小事の積み重ねです。なので、小事をおろそかにせず、小さな事、簡単なことを確実に繰り返すことが大切なのです。

（『上司のルール』より転載）

嶋津良智■リーダーズアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。